

先進地視察の報告について

【先進地視察先】

■津市産業・スポーツセンター「サオリーナ」※「三重武道館」



本市の類似都市三重県津市（人口約 28 万人）にある総合的な屋内スポーツ施設である。現在の津市は平成 18 年 1 月に 2 市 6 町 2 村が合併して誕生。市町村合併を経て、老朽化した津市体育館、津市民プール及び三重武道館の移転と多様化する利用者ニーズへの対応を目的に、既存の産業展示施設（メッセウイング・みえ）の隣接地に整備された。

整備にあたり、平成 23 年 9 月に津市屋内総合スポーツ施設基本計画を策定、翌平成 24 年から津市屋内総合スポーツ施設設計検討委員会を設置し、学識経験者や各種スポーツ団体の意見を踏まえながら基本設計・実施設計を進め、平成 27 年 4 月から平成 29 年 6 月までの工期をもって完成した。

2021 年 9 月から開催される第 76 回国民体育大会「三重とこわか国体」の中心的会場として、バレーボールやバスケットボールが開催される予定である。

※「サオリーナ」…津市出身の吉田沙保里選手の名前にちなんだ名称。

- (所在地) 三重県津市北河路町 19 番地 1
(竣工) 平成 29 年 6 月 29 日<平成 29 年 10 月 1 日オープン>
(事業費等) 総事業費約 149 億円(財源:三重県から三重武道館整備補助金約 4,600 万円と合併特例債約 123 億円)
(指定管理者) 津市スポーツ・メッセネットワーク(美津濃(株)、ミズノスポーツサービス(株)、国際警備保障(株)三重支店で構成)

【施設の概要】

- ①敷地面積 95,019 m²
②施設規模 建築面積:24,320 m²、延床面積:29,171 m²
③構造 RC(鉄筋コンクリート)造、SRC(鉄筋鉄骨コンクリート)造
④主な施設 「サオリーナ」
- メインアリーナ
3,174 m²(69m×46m、天井高 15m、2~3分割可)、観客席 3,054 席(固定 2,476 席、可動 546 席、車椅子 32 席)、ランニングコース(1周 280m)
 - サブアリーナ
1,702 m²(46m×37m、天井 13m、2分割可)、観客席 478 席(固定 468 席、車椅子 10 席)
 - 屋内プール
826 m²(35.6m×23.2m)、25m×7レーン(水深 1.1 m)、幼児用プール(水深 60 cm)、ジャグジー
 - その他
トレーニングルーム(332 m²)、フィットネススタジオ(157 m²・2分割可)、フリーウェイトルーム(85 m²)、諸室(来賓控室、放送室、救護室、多目的室など)



(メインアリーナ)



(サブアリーナ)



(屋内プール)



(トレーニングルーム)



(フィットネススタジオ)



(フリーウェイトルーム)

「三重武道館」

●柔剣道場

1,399 m² (37.2m×37.6m、剣道2面、柔道常設2面)

●弓道場

847 m² (近的 10人立)



(剣道面)



(柔道面)



(弓道場)



(弓道場)

- ⑤利用種目 メインアリーナ：バスケット3面、バレー4面、バドミントン16面、卓球20面、フットサル3面など
サブアリーナ：バスケット2面、バレー2面、バドミントン10面、卓球12面、フットサル2面など
- ⑥駐車台数 1,848台

【施設の現状】

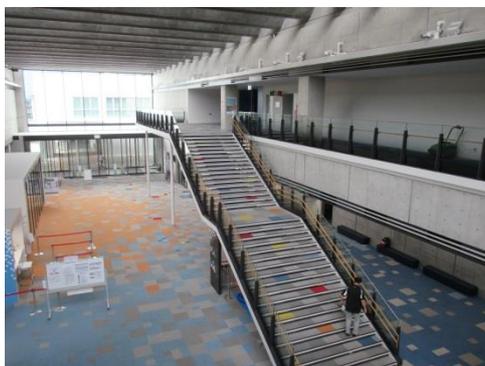
- ①利用者数 287,890人（平成29年10月～平成30年6月時点）
- ②大会数 平成29年10月から平成30年9月までの1年間をオープニングイヤーと位置づけ、137大会の開催が決定
※平成30年7月には、平成30年度全国高等学校総合体育大会（インターハイ）の会場として、ハンドボールやバレーボール、柔道が行われた。
- ③バリアフリー バリアフリー新法や三重県ユニバーサルデザイン条例に適合した施設
※具体的には、来場者事前情報システム（出入口放送）、災害時の誘導音声及びフラッシュ、誘導支援システム（多目的トイレ緊急呼出）、トイレ音声案内システム（多目的トイレ内施設音声案内）、集団補聴設備システム（磁気ループ）などを整備している。
- ④防災面 広域防災拠点としての機能を有し、車中泊の拠点、物流中継拠点として、津市地域防災計画に位置づけられている。

【視察において特に気になった点】

- 広大な土地で、十分な競技スペースを確保している。
- 駐車場は 1,848 台確保しているが、平成 30 年 7 月のインターハイ開催時は満車近くになったとのこと。
- 施設の周りや屋上広場などに天然芝を敷いてあるが、管理の面では人工芝が良いとのこと。



- 施設毎に色分けしおり、各施設のテーマカラーに沿って歩けば目的施設にたどり着く。



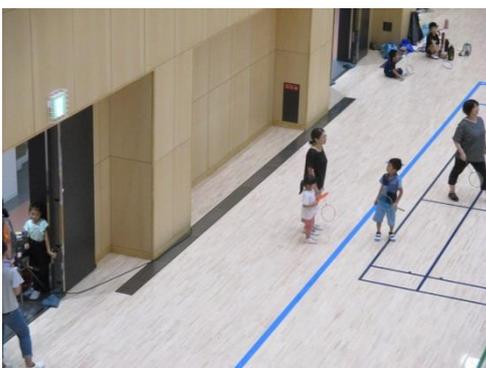
- 外光をうまく取り入れる構造になっている（大規模空間では、世界初の自然採光システム「光ダクト」採用）。一部、西日が入らない構造になっている。



- 男女トイレが多数あり、一部可動間仕切壁で便器個数を調整できるところがある。
- 施設毎にトイレ・更衣室・シャワー室を完備している。
- 自主事業として、指定管理者である美津濃(株)が販売しているスペースがある。



- トレーニングルームやフリーウェイトルームがあり、トレーニング器具が充実している。
- 柔剣道場は間仕切壁を外すとかなり広い。
- 空調は吹き上げ式を採用している（吹き上げ式の方が競技への影響が少ない）。



- サブアリーナの壁面に休憩ベンチを設置しており、好評とのこと。

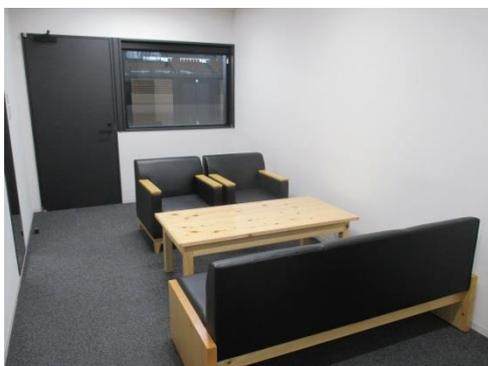


- メインアリーナのライン引きはポイントのみ。利用者がテープを持参して引く。
- 舞台はなし。必要な場合は備品を組み立てて設置する。

- 器具庫が広く充実している。ただ、バスケットボールゴールが移動式で利用者の設置に時間を要する。



- 諸室が充実している。



- 敷地外周にも 1.2 kmのランニングロードを整備している。路面はゴムチップ舗装で、照明も配置している。



…など